

生成AI銘柄に注目 画像処理半導体など

サン・チョ

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
テクノロジー株式運用共同責任者

——「netWIN GSテクノロジー株式ファンド」の基本的な運用戦略は。

「時価総額20億ドル（約3000億円）以上のハイテク企業が投資先候補だ。米国で約250社がある。この中から30～40社を選ぶ。10月末時点は36社だ。成長市場の中でリーダーシップを発揮できる企業を探す。（為替ヘッジをしない）Bコースでは過去10年の平均リターンが年率17%、過去20年でも12%だった。長期にわたって相対的に安定したリターンを上げている」

「投資対象のハイテク企業は

3つに分類している。新たな市場やビジネスモデルをつくり既存市場を破壊して高い成長を実現する『ディスラプター』、安定的な収益源を持ち着実に成長する『コンパウンダー』、成熟企業ながら革新的技術を取り入れて再成長を遂げる『エボルバー』だ」

「ファンドの5割程度をディスラプター、3～4割をコンパウンダー、残りをエボルバーに投資する。市場全体が弱気な時には自己資本の厚いコンパウンダーを増やすなどして対応している」

——具体的な投資先は。

「最大の注目テーマは生成人工知能（AI）だ。生成AIに必要な画像処理半導体（GPU）では米エヌビディアが100%の市場シェアを持つ。生成AI市場全体が成長する中で、今後はエヌビディアだけではなくGPU技術を持つ他の半導体メーカーも恩恵を受けるだろう。株式市場はまだこの点を評価していない」

「生成AIの利用が広がるにつれ、データセキュリティーもより求められるようになる。関連企業は恩恵を受けるだろう。

生成AIを活用したアプリケーションも興味深い。米マイクロソフトはワードやエクセルでの作業を生成AIで支援するツールを提供し始めており、収益ドライバーになると見ている」

——ほかの注目分野は。

「自動運転システムを提供する会社にも注目している。（運転手が運転状況やシステムを監視する）『レベル2』の自動運転技術と比較し（システムが運転を担い必要に応じ手動に切り替える）『レベル3』になれば、システム提供時の単価は大きく上昇する。ひとたびレベル3が

netWIN
GSテクノロジー
株式ファンド

10月末の純資産残高はAコース（為替ヘッジあり）とBコース（為替ヘッジなし）の合計で約9200億円。設定日はA、Bとともに1999年11月29日。残高の多いBコースでは10月末の分配金再投資ベースのリターンが昨年末比43.4%、設定来で352%。信託報酬は年率2.09%。

普及すれば自動運転技術を持つ会社は収益拡大が期待できる。また、決済のデジタル化も重要な長期トレンドだ」

——リスクは。

「金利上昇はハイテク株にとってマイナスだ。資金も借りづらくなるため、収益率の低い企業には注意が必要になる。金利がいつピークをつけるのかを予想するのは難しいが、今後は上昇率が鈍化しよう。ハイテク企業は足元の決算で業績の底堅さが確認された。基本的に収益は強く、金利上昇などの逆風を圧倒するだろう」



許諾番号30096329 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2023年11月19日 日経ヴェリタス 045ページ ©日本経済新聞社 無断複製転載を禁止します。